

図書館を多く利用する方法

C1241669・安野碧

テーマ：これまで以上に利用したくなるような図書館を提案する。

①私は、図書館を利用している同じ講義を受けている1年上の先輩にインタビューをし、「なぜ図書館で利用するのですか？」という質問に対しての回答では「学校から出された課題の情報や知識を得るために利用している」と言い、私もこの理由が一般的な考えだと思いました。他の質問では、「それ以外の利用する理由がありますか？」での回答では、「施設の整備の快適さ、職員の雰囲気の良い、PCでの資料検索がしやすい環境が整えられている」と返答され、これはあるとないとじゃ充実されている整えられた空間があつてこそその図書館、本来の忠実に利用される目的なのだと思います。次に、周りを観察してわかったことは、大学での課題こなすためそして、情報を得るために参考資料を探し回っており、その本の内容によっては勉強に使うものもあれば趣味で読んでいる人もおり、日常や今後に向けての情報や知識を取得するための行動がよくわかりました。私も、最初に先輩から答えていた図書館の施設を利用し勉強した結果、静かな空間での勉学は取り組み、気分も落ち着いた雰囲気にもなり集中力が上がり作業がスムーズに終わることができました。

②顕在的ニーズとして挙げられるのは、『同じ目標を持つ友達と一緒に勉強したい』という点です。これは、勉強仲間がいることでモチベーションが向上し、互いに励ましあいながら学習を進めることができるため、具体的には、共通の目標に向かって協力し合うことが学習効果を高める一因となります。

次に、潜在的ニーズとして『お互いの欠点を補いたい』という点があります。これは、表面的には気づきにくいかもしれませんが、実際には非常に重要なニーズだと考えます。異なる強みを持つ友人と一緒に勉強することで、自分の弱点を補強し、幅広い知識やスキルを身につけることができるおもいます。

これらのニーズを理解し、対応することで、より効果的な学習環境を整えることができると考えられます。

③次にコンセプトについてです。対象は、一人で苦手分野を勉強するのが苦手な人です。そうした人たちが集まり、苦手なところを共有して教え合える場所を提供したいと考えました。

プロダクトでの説明では、各テーブルは異なる形や配置になっていて、さまざまな学習スタ

イルに対応できるように設計し、円形と三角テーブルでは、グループディスカッションやチームでの作業に適しています。全員が平等に意見を交換しやすい環境を提供します。全体として、このプロダクトは、柔軟な学習環境を提供して、参加者がそれぞれのスタイルに合わせて最適な学習方法を選択できるよう工夫しました。このように、多彩なニーズに対応した学習スペースを提供することで、参加者全員の学びをサポートできると考えました。

④この3つを挙げて仲間との助け合いながら成長する姿勢は勉強はもちろん、それ以外のところでも大切だと考えます。